

● クモの生態観察

<擬態するクモ>

ここにゴミグモがありますが、わかりますか？
ごみりボンの中に紛れて、よく見ないとわかりません。このようにごみに紛れて、擬態することによって、捕食者から身を守っているのです。

初夏のころ、このフェンスには、ゴミグモのほかにコガネグモも円網を張りますが、狩蜂などに襲われ、網の数が急激に減少します。

ゴミグモはそれを逃れて同じ場所で網を張り続けているのが多いようです。ゴミグモはごみに紛れて姿が目立たないからでしょう。

一方、コガネグモは体の黄色の部分に紫外線を反射します。餌を誘因するのに役立ちますが、捕食者も惹きつけてしまうのでしょうか。



ゴミグモはごみに紛れてわかりにくい

おや、こちらにはオナガグモがいます。
わかりますか？

このマツの葉みたいなのが、オナガグモです。ちょっと息を吹きかけてみましょう。
あっ少し動きました。

オナガグモは、クモを食べるクモです。

一般に、クモは移動の際に他のクモが引いた“しおり糸”を利用します。

オナガグモはこの数本の粘らないしおり糸を渡ってくるクモを捕食します。時にはこの糸に止まる昆虫も捕らこともあります。この数本の糸は条網(すじあみ)といいます。

このオナガグモは緑色ですが、枯れたマツのように褐色のオナガグモもいます。(以下省略)



クモを食べているオナガグモ。足を閉じるとマツの葉のよう

<クモに触ったらどうなる？>

ここに見られるのはコガタコガネグモです。

前回このフェンスで見られたコガネグモは7月に産卵し、今は幼体が見られます。

一方、コガタコガネグモは今の時期が成体で、産卵時期です。

コガタコガネグモとコガネグモは、幼体の見た目はそっくりですが、いつの時期に見られたかで、見分けがつかず。

コガネグモは草原のクモですが、コガタコガネグモは林縁のクモです。

コガタコガネグモは刺激に敏感で、ちょっと触れるとすぐに網から飛び下りてしまいます。そのまま静かに待っていると、しおり糸を伝って元の網の中心に戻るはずですが。

では触ってみましょう。

あれれ、予想に反して横に逃げてしまいました。失敗です。こんなこともあるんですね。



コガタコガネグモの幼体



ナガコガネグモの成体。白いのは隠れ帯

このやぶに円網を張っているクモが、ナガコガネグモです。

ナガコガネグモは水辺の比較的低い場所に網を張るクモで、網の中心付近には白い隠れ帯があります。

私が指でつつくと、このクモはどうすると思いますか？ 三択です。

- 噛みつく
- 糸を引いて逃げる
- 網を揺らす

さあ、どれでしょう？

だれか、そっとつついてみてください。

あっ、網を揺らしていますね。

なぜ網を揺らすのでしょうか。

危険が迫った時に、捕食者を驚かすのに役立っているのでしょうか。

この縦の白いぎざぎざの部分の隠れ帯(かくれおび)といいます。

このクモの網の後ろから紫外線写真を撮ると、隠れ帯が紫外線を強く反射して、クモの姿が見えなくなります。まさに隠れ帯の役割を果たしているわけです。

この紫外線を強く反射する隠れ帯が強く揺れるのですから、紫外線の光に敏感な昆虫は驚いて逃げたしまうのでしょうか。

ジョロウグモやコガネグモも、幼体の時は、刺激によって網を揺らします。（浅間茂）

